

# 介護老人保健施設しおさい

**症例概要** "利用者 : 70代 女性  
利用期間 : 令和2年12月より利用  
病名 : 左大腿骨頸基部骨折  
既往歴 : 日本脳炎 後遺症により知的障害  
経過 : 中学卒業後、家に入り社会との関わりもなく長年過ごされていたが、令和2年左大腿骨頸基部骨折をきっかけに当施設を利用することとなる。人見知りの性格からなかなかなじめなかったが、本来の明るい性格を取り戻し第三の人生を楽しんでいる症例。

## 内 容

中学卒業後、約60年社会との関わりはなく、ご家族とお家で過ごすという閉鎖された空間で、ビーズ通しや塗り絵、テレビ鑑賞などをされながら、ご自分のペースで過ごされていたそうです。そんな中、左大腿骨頸基部骨折をきっかけに当施設のご利用が始まりました。施設利用にあたり、ご家族は「60年も家にいたし、中学時代にいじめに遭ったことがあり、皆さんと上手くやっていけるか」「皆さんに迷惑を掛けるのでは」と大変心配しておられました。やはりご家族の心配は現実となり、不安や緊張がとてもしつやかな表情での来所となりました。職員からの声かけにも、うなづく程度で会話も途切れてしまいます。ユマニチュードで習った「見る」「話す」を取り入れながら、職員から積極的にコミュニケーションをとっていききました。徐々に一対一でなく他者をも巻き込み、接して行くことにより笑顔が少しずつ見られるようになっていきました。ご自分の要求も伝えてくださる様になり、またそれを周囲の利用者さんが職員に伝えてくださるなど「人との繋がり」や「人の思いやり」を感じられた事と思います。来所時ご自分から挨拶を下される様にもなっていました。今では入浴着脱時に職員にちよっかいを出してくるなど、打ち解けて下さっています。時には肩たたきをして下さり、「ありがとう」の気持ちを伝えた事により万遍の笑みを浮かべておられます。慣れてきたところで、トランプへの参加も促してみましたが、最初は拒否があったため、まず見学をして頂きました。すると隣にいた利用者さんが「見てやるから一緒にやらっしょい」という声をかけて下さいました。嬉しそうに頷き、トランプ参加が実現しました。毎回声をかけて下さる利用者さんとも色々お話をする様になり、片言ですが会話が弾み笑顔が沢山みられる様になりました。ご家族との連絡帳には、ご利用当所、迷惑をかけているのではないかと心配事が記されていましたが、今では、ご本人がお家でしおさいでの様子をお話しされた内容や、「自分でリビングまで起きてきました」など日々の変化など感謝の気持ちが毎回記される様になりました。

今はしおさいに通うのが毎日楽しいとおっしゃっています。ご家族は「骨折は大変な事でしたが、この事で施設を利用する事ができ、楽しい日々を送れる事をとても嬉しく思っております。」と感謝のお言葉をいただきました。中学卒業後、約60年間もの時間を限られた環境で生活されてきた方が、しおさいで「友達が出来た」と喜んでお話しされていることは、まさに第三の人生が始まっています。ご家族からは笑顔がとても増えたと伺っています。社会の中で人の優しさや思いやりに触れたことで、新たな人間関係を築き、第三の人生を謳歌され楽しく過ごす事ができた症例です。